

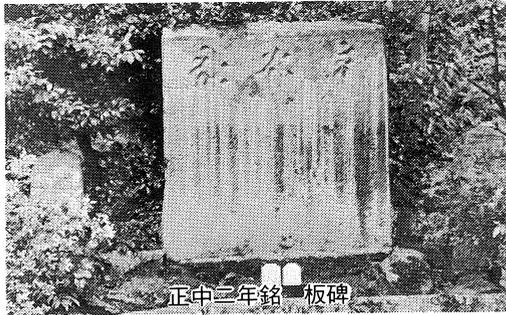
町史のひとこま

(第十六回)

佐谷の板碑

県下で四番目の古さ

佐谷観音谷の建正寺跡に板碑いたびがあります。十一面観音を納めた観音堂のすぐ横に立っていますから、ごらんになった方も多でしょう。最近前面に倒れかかってきたために、臨時につなぎ



正中二年銘 板碑

とめてあります。

板碑というのは、関東に多い石碑の型式です。九州ではめずらしいわけですが、中でもこの佐谷の板碑は、鎌倉時代の銘をもつものとして県下では四番目に古い石碑です。左右には一つずつ脇板碑が見られます。

法華經一萬部を読む

佐谷は古くから左谷山さたにやまの名で呼ばれた密教霊場で、伝教大師（最澄）の開山とする伝説を残しています。県指定文化財の十一面観音像も伝教大師作と伝えられるものです。

板碑は、伝説として歴史の片すみにおしやられがちな地方の霊場の史実を、書かれた同時代史料として千数百年後の私たちに語りかけてきます。この土地に住む私たちにとって貴重な歴

史的遺産なのです。

碑文は、千数百年の風雪にさらされて、読むことができませんが、幸いにも江戸時代の写しが今日まで伝わっています。刻れた年号は「正中二年」で、歴一二三五年にあたります。

あと数年で鎌倉時代も終わろうとする最末期のものです。

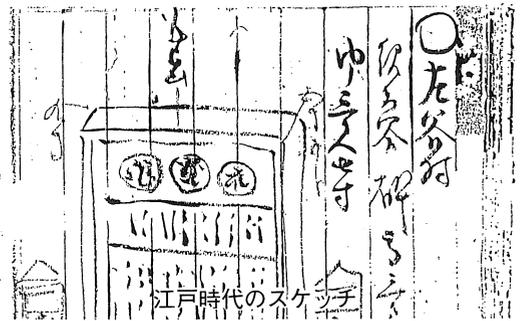
この石碑は、若杉山で法華經一萬部を読み終えた記念に建てられたものです。

有智山寺の末寺

碑の上部には三つの梵字ぼんじが並んでいます。大日如来を示すバン、釈迦如来を示すバク、阿弥陀如来を示すキリークです。その下には聖徳太子・伝教大師・弘法大師（空海）・聖空上人の四人の名があり、法華經一萬部の読経はこの四人の供養のためだったのです。

聖空上人は、正しくは性空上人のことでしよう。性空上人は霧島山や背振山で兼した山岳宗教の行者です。

一萬部読経は正和三年（一二三一年）七月十五日に始められま



ます。碑文には建正寺のことが「左谷山賢聖院」と書かれており、「天台別院有智山末寺」となっています。

有智山は宝満山ふもとの内山のことで、宝満山にあった有智山寺の末寺が賢聖院でした。

ここで注意されるのは、文献によると、宝満山にも法華經一萬部を読んだという石碑があり、それも正中二年の銘をもっています、佐谷に残るものと一致していることです。宝満山の石碑は現存していないかと思われませんが、こうしたことから法華經を読むのに宝満山のお坊さんたちも加わっていたと考えられます。

お宮でお坊さんがお経を読む。今の私たちの目には奇妙に思われますが、この時代は神仏習合しんぶじゆごと言って神と仏が同居していたのでした。お経を読んだのはお坊さんだけでなく、一般の善男善女も加わっていたかもしれせん。

若杉山上宮（太祖神社）で数千部の経文を読み終え、最後に佐谷の建正寺で一萬部読経を完了したのでした。これが正中二年（一二三五年）のことで、一萬部読むのに十二年もかかってい

ます。碑文には建正寺のことが「左谷山賢聖院」と書かれており、「天台別院有智山末寺」となっています。